科目名	衛生学・公衆衛生学			担当教員	大宍 貴史
単位	2単位	講義区分	演習	ナンバリング	ED1PHG101
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	該当なし				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、子どもの心身の健康問題、集団の健康および環境問題等を取り扱う。				
到達目標及びテーマ	子どもの心身の健康問題、集団の健康問題および環境問題の具体例を知り、衛生学・公衆衛生学の有用性を説明できる。また、心身の健康増進に向け、衛生学・公衆衛生学の観点から対策を考え、応用することができる。				
授業の概要	個人および集団の健康の保持増進するための現状の対策および今後の課題があるのかを考える学問である。個人および集団の健康がどのような条件で病気を発症するのか。また、人々の健康の保持増進を促すためには、何を実践しなければならないのか、について解説する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション、本講義の概論
第2回	健康の概要
第3回	人口動態統計
第4回	母子保健、人工妊娠中絶
第5回	感染症と予防接種
第6回	食中毒
第7回	生活習慣病Ⅰ：糖尿病、高血圧症、脳血管疾患、メタボリックシンドローム
第8回	生活習慣病Ⅱ：悪性新生物、心疾患、脳血管疾患
第9回	食品衛生、小テスト
第10回	産業保健Ⅰ：労働安全、労働災害、職業病および小テストの解説
第11回	産業保健Ⅱ：精神疾患およびその対処
第12回	健康日本21(第3次)Ⅰ：概略および依存症Ⅰ（飲酒）
第13回	健康日本21(第3次)Ⅰ：概略および依存症Ⅱ（喫煙）
第14回	医療保険制度および医薬品
第15回	まとめとまとめの試験（持ち込みは一切不可）

事前学修	生活習慣病について調べる。 主な微生物と人が罹患しやすい感染症を調べる。 労働安全について、学校および公務員の休職および退職理由について調べる。 健康日本21（第3次）について、要点を調べる。
事後学修	集団における健康の保持増進を図るために、何が必要であり、何が重要かについて、衛生学・公衆衛生的観点からまとめる。
フィードバックの方法	小テストは、実施した翌週の講義内でポイントを解説し、学習課題を各自が再度把握する。まとめの試験のフィードバックは、模擬回答を作成し、試験終了後に配布・解説する。

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	15%	毎回、講義内容に関するショートレポートで評価する。
上記以外の試験・平常点評価	85%	小テスト(25%)、まとめの試験(60%)

補足事項	小テストおよびまとめの試験を受験しなかった学生は、単位不認定とする。また、小テストおよびまとめの試験共に持ち込みは一切不可とする。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	随時、講義内で紹介する。			